



# 「農業農村整備事業」 令和8年度北海道開発局事業概要

国土交通省北海道開発局農業水産部農業計画課

## 北海道農業の現状

北海道は、日本全体の耕地面積の約4分の1を占めており、日本の食料供給を支える大きな役割を担っています。近年、世界的な人口増加による食料需要の増加に加え、不安定な国際情勢や地球規模の気候変動などを背景に食料の安定供給への懸念が高まる中、北海道が果たしていく役割は、ますます大きくなっています。一方で、農業を取り巻く環境は年々変化しており、次のような課題が表面化しています。

## 北海道農業が抱える主な課題

### ① 農業経営体の減少と担い手への農地集積

全国を上回るスピードで人口減少と高齢化が進行している北海道では、この10年間で農業経営体は約3割減少しました。今後も、高齢化による離農が増えると見込まれ、優良農地を担い手へ円滑に引き継ぐ仕組みづくりが必要です。

### ② 気候変動による自然災害リスクの増加

豪雨や渇水、夏場の高温など、気候変動の影響が各地で見られます。北海道でも、気象災害のリスクが高まっています。農作物を安定的に生産するためには、大雨時に速やかに排水する施設や、農業用水を確保するための施設（以下「農業水利施設」という）を整備することが欠かせません。

### ③ 農業水利施設の老朽化等の進行

北海道の農業を支えるダムや主要な用排水路などの農業水利施設は、多くが高度経済成長期に整備されたもので、老朽化が進んでいます。

さらに、凍結や積雪など寒冷地特有の影響も受けやすいため、計画的に更新していくことが重要です。

## 北海道開発局の取り組みの方向性

令和7年4月には新しい「食料・農業・農村基本計画」が策定され、農業の構造転換（生産性向上、輸出力強化、スマート農業（ICTや自動化技術を活用した農業）の普及など）が集中的に進められています。

主要穀物の主産地である北海道が安定して農産物を生産し、我が国の食料安全保障を支え続けるため、農地整備や農業水利施設の改修、スマート農業の導入支援などを総合的に進めていきます。

主な取り組み内容

1 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

(1) スマート農業の推進やコストの低減等に向けた農地の大区画化等：

農地の大区画化や排水改良（農地の水はけを良くするための整備）などを推進し、スマート農業技術の活用などにより、需要に応じた園芸作物の生産拡大を促進します。

農地の大区画化等の基盤整備（水田の整備）  
【岩見沢北村地区の例】



(2) 持続的な農業生産を可能とする農業水利施設の整備・戦略的保全管理：

作物に水を安定して届けるための設備など、災害リスクや気候変動に対応した農業水利施設の整備を推進します。また、維持費用を抑えながら農業水利施設を長く安全に使うため、老朽化対策や耐震対策を行い、農業生産を支えていきます。

渇水・干ばつに対応した農業水利施設の整備



融雪の早期化や降雨量の減少による渇水に対応し、近傍ダムから農業用水を供給するための整備を実施。  
【北斗用水地区の例】

かん水により、干ばつ時でも畑作物の生産を安定化。  
【北見二期地区の例】

老朽化した水利施設の適時適切な更新整備



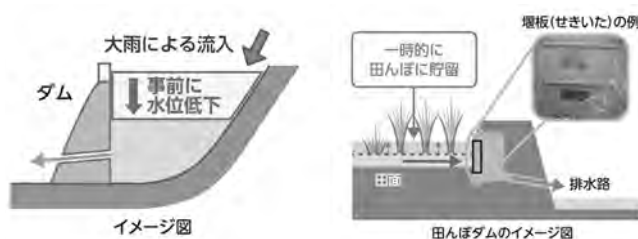
施工前 施工中 施工後  
凍害、摩耗により老朽化したコンクリートの用水路  
老朽化した表面を除去、清掃後、断面修復材で平滑に仕上げる  
補修完了

施工前 施工中 施工後  
塗装が劣化した頭首工ゲート  
塗り替え作業  
塗装完了

2 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり：流域治水対策の推進

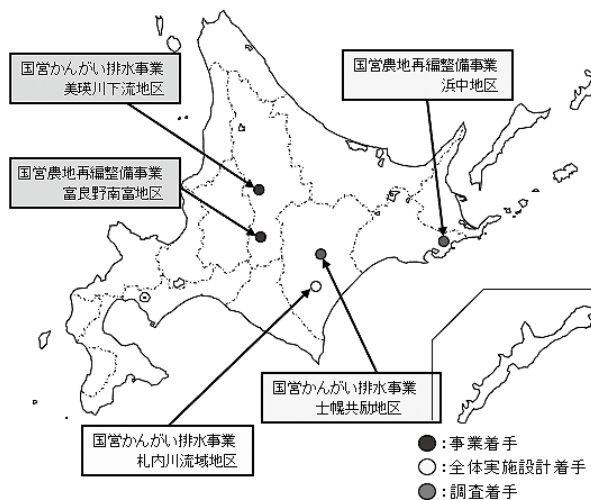
北海道では、地域全体で水害に備える「流域治水」の取り組みが進んでいます。農業用ダムの事前放流や「田んぼダム（田んぼを活用して雨水の流れをゆるやかにする方法）」による水田での貯水機能の活用など、農地や農業水利施設も治水の一部として機能しています。

流域治水の推進に向けて、市街地や集落を含む農村地域の排水対策のための施設整備、事前に放流などを行うダムの整備、田んぼダムに取り組む地域における農地の整備を進めます。



令和8年度に新たに着手する地区

令和8年度は、国営かんがい排水事業1地区、国営農地再編整備事業1地区が着手します。また、国営かんがい排水事業「札内川流域地区」で工事計画に係る詳細な設計を行うため、全体実施設計を行います。国営かんがい排水事業「土幌共励地区」、国営農地再編整備事業「浜中地区」において調査を開始します。ここでは、紙面の関係上、新規に事業着手する地区の概要を紹介します。



## 1 国営かんがい排水事業 美瑛川下流地区

### (1) 計画内容

関係市町村：旭川市

受益面積：771 ha

主要工事：ダム（改修）1箇所、用水路（改修）7.0km

### (2) 課題と取り組み

近年、用水路で漏水事故が繰り返し発生し、安定した農業用水の確保が難しくなっていることに加え、営農の変化により必要な水量も変わってきています。また、造成から相当年数が経過している施設は、大規模な地震により損壊する恐れがあります。このため、ダムと用水路の改修・耐震化を進めるとともに、必要な農業用水の安定的な供給と維持管理の負担軽減を図ります。



管路の漏水事故状況  
(道路への土砂流出も発生)

用水供給停止時  
ハウスへの用水確保状況

### (3) 事業実施により期待される主な効果

- ・米の安定生産
- ・維持管理の負担軽減
- ・園芸作物の作付拡大による収益力向上
- ・洪水への備えの強化\*（神居ダムの耐震化）

注：ダム下流には旭川市街地があり、治水協定を結んでいる神居ダムの取水放流設備の耐震化は、農業用水の安定的な確保のみならず、水害発生防止にも寄与します。



神居ダム  
(取水放流設備の改修、耐震化等)



用水路の整備  
イメージ

## 2 国営農地再編整備事業 富良野南富地区

### (1) 計画内容

関係市町村：富良野市、南富良野町

受益面積：1,916 ha

主要工事：区画整理\* 1,916ha

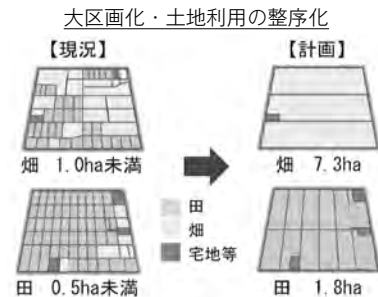
注：ここでいう区画整理とは、農地の大きさや形を整えて使いやすくすること、ばらばらな農地を整理し、効率よく耕作できるようにすることを意味します。

### (2) 課題と取り組み

地区の農地は区画が狭小で、排水不良などが生じています。加えて、田と畑の土地利用が錯綜しているため、大型機械による効率的な営農作業が行えず、経営規模の拡大を妨げています。このため、農地の排水能力向上など生産基盤を整備するとともに、区画整理を一体的に行うことで、担い手への農地の利用集積を行います。

### (3) 事業実施により期待される効果

- ・米、麦などの生産コストの低減
- ・スマート農業の導入促進と作業効率向上
- ・玉ねぎなど野菜の作付拡大による収益力向上
- ・食料を安定的に生産・供給する力の強化



スマート農機・農作業請負組織



上：自動操舵トラクター 上：ポテトハーベスター  
下：自動給水栓 下：オニオンピッカー

### おわりに

北海道農業は、日本の食料安全保障の柱です。

気候変動や農業生産の将来を担う人材の確保といった課題に向き合いながら、未来に向けた持続可能な農業基盤を整えるため、北海道開発局は地域と連携し、着実に取り組みを進めていきます。